

凍てつく冬風が吹くエルサレム神殿で、人々は主イエスを取り囲み、「あなたが本当にメシアなら私たちを納得させてみろ」と詰め寄りました。彼らは自らを品定めする審判員の座に置き、主を評価しようとしたのです。現代を生きる私たちもまた、自分の知恵や頭で「納得できたら信じよう」とする傲慢さを持っています。しかし、視界の狭い羊が荒野を知り尽くした羊飼いの深い知恵を判断できないように、自分の力で神を正しく測ることなど不可能です。私たちが主を信じることができるのは、私たちの賢さゆえではなく、神の側から先に私たちを見出し、名前を呼んで「ご自身の羊」として引き寄せてくださったからにほかなりません。

主イエスに従う羊には、決して揺らぐことのない3つの約束が与えられています(28節)。それは、今この瞬間から始まり死すら突き抜ける「永遠の命」と、どんな過酷な試練の中でも「絶対に滅びない」という保障、そして何者も私たちを奪い去ることができない

「主の保護の御手」です。主はさらに、「すべてのものより偉大な父が、私に彼らを与えられた。誰も父の手から奪うことはできない」(29節)と畳みかけられます。

私たちが悲しみや試練の冬風の中で指先がかじかみ、神さまの手を離しそうになるときも、私たちの救いが揺らがないのはなぜでしょうか。それは、私たちが神を握りしめる力ではなく、「すべてのものより偉大な神のほうに、決して離さずに握りしめてくださる」からです。私たちを命がけで買い取るために十字架の傷痕が刻まれた「キリストの御手」と、その手を上から圧倒的な力で包み込む「父なる神の偉大な御手」。この三位一体の神の「二重の御手」の間に抱かれている私たちを、世のいかなる病も、失敗も、将来への不安も、死すらも奪い去ることは絶対にできません。この揺るぎない安心と保障を胸に抱き、私たちの先頭を歩まれる「まことの良い羊飼い」主イエスに、大きな喜びと感謝をもって従っていきましょう。